

神戸市北区

農でデザインする福祉のまちづくり事業

(平成21年度～23年度)

報告書



平成24年3月

事業主体：神戸市（北区保健福祉部）

委託先：社会福祉法人 フレンド

目次

あいさつ	1
1 章 事業の概要	2
1-1 事業の背景	2
1-2 事業の実施	2
1-3 1年目の取り組み ～農業に触れる～	2
1-4 2年目の取り組み ～体験から作業へ～	7
1-5 3年目の取り組み ～作業から事業へ～	11
2 章 事業の検証	14
2-1 農業生産関係	14
2-2 農産物加工事業	17
2-3 販売事業	18
2-4 ネットワーク	20
2-5 サポーター	20
2-6 就労継続支援事業所における農業の課題	22
2-7 おわりに	23
3 章 各事業所の取り組み	25
上野丘更生寮	25
かがやき神戸	26
みのたに園	27
ワークステーション フレニード	28
北むつみ会 すずらんの里	29
清心ホーム	30
にじのかけ橋	31
いかり共同作業所	32
はっち	33
資料	34
23年パンフレット	34
活動の記録（年表）	38
関係者一覧	43
ロゴマーク	44

ごあいさつ

神戸市北区保健福祉部長 横田治郎

この事業は、農家や地域の支援のもと、障害福祉施設等が休耕田を活用し、共同で農業を通じて障害のある人の就労を支援するプロジェクトで、ふるさと雇用再生事業（国庫補助事業）を財源に、平成21年度から23年度の3年間のモデル事業として進めてまいりました。この間、多くの関係機関のご支援をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

モデル事業の実施を通じて、生産面では作業時間の確保、週末の対応、配送手段の確保、販売面では端境期の対応等様々な課題も浮かび上がっておりますが、生産者と消費者の関係を大切にしながら少しずつ解決できればと思っております。

24年度以降は、北区地域自立支援協議会の特別部会に位置づけ、3年間の成果を活かしつつ継続して取り組むこととなっております。引き続き皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

謝 辞

社会福祉法人フレンド理事長 岩田峰幸

北区の田畑は四季の移ろいを感じさせ、心を豊かにしてくれます。しかし、農作業を行っている方々は高齢化し、耕作を放棄した農地が見られるようになってきました。

そのような状況の中、北区役所は障害者の農業就労を検討する「農でデザインする福祉のまちづくり事業」を平成21年度から3年間にわたり実施し、当法人がその事業を受託しました。

北区の障害者就労支援事業所では、草刈りなどの農作業の請負の実績はありましたが、実際に農業を経営していくとなると、管理作業や販売方法などで戸惑うことが多くありました。そのような苦労を繰り返しながら多くの事業所が協力し合い、一步一步実績を積み重ねていくことができたことを嬉しく思います。ご参加くださった事業所の皆様に感謝申し上げます。

また、当事業は、地元農家の皆様、関係団体の皆様のご理解とご支援なしには行うことができませんでした。ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

この3年間の事業はスタートであり、農業の事業はこれから5年、10年と長いまちづくりの視点でじっくりと取り組んでいきたいと思っております。今後ともより一層のご支援をお願い申し上げます。

1 活動の概要

1 事業の概要

1-1 事業の背景

21年度から23年度に実施した当事業は、その半年前の20年8月、北区社会福祉協議会が神戸市北区の自立支援協議会の各施設長に呼びかけ、有志による会合から始まった。

事業を実施する背景は大きく2つあり、1つは北区のかかえる現状である。

神戸市北区は市街地と異なり、山間部の地形を有し、広く整備された圃場の法面は高くなり、その管理は高齢者には厳しく、経営的にも足枷になっている。農業就労者の高齢化は年々進み、今後、耕作放棄地の増加が懸念されている。

この3年間の取り組みでは、地主の方や地区の方に農地管理の信用を得ることができれば、北区内では条件の良い農地を使用できる可能性が高いことが分かった。

もう一つの背景は、就労支援事業所の請負作業の減少に対する懸念である。世界的に経済状況が下降傾向にあり、障害者就労支援事業所まで仕事がまわってこなくなるのではと心配する施設が多くあった。そこで自主作業を科目に加え、請負作業が無くなっても作業が途切れないようにしたいという就労支援事業所の思惑である。

しかし、この3年間においては、懸念したような請負作業の減少は幸い見られなかった。

障害者就労におけるこの3年間の大きな変化は、一般企業への就職が増加したことである。全国のデータでも20年から22年にかけて、民間企業の実雇用率は1.59%から1.68%、法定雇用率を達成した企業割合は、45%から47%でいずれも過去最高を記録している。

大変歓迎すべき状況であるが、就労支援事業所においては、作業能力の高い利用者が一般企業に就職すると、事業所の作業能力は低下する。複雑で日ごとに変化していく農作業を就労支援事業所は、どうすれば作業科目に取り入れていくことができるか検証した。

1-2 事業の実施

20年度に施設長有志による会合を4回持ち、就労支援事業所における農業就労にどう取り組むか相談を重ねた。

20年度末に「ふるさと再生雇用」の募集があり、コーディネーターを雇用し、事業に取り組むことになった。

実施にあたっては、アクションプログラムにあるように、耕作放棄地で農業の就労訓練を行い、障害者等が就労継続できるコミュニティビジネスを立ち上げることを目標とした。

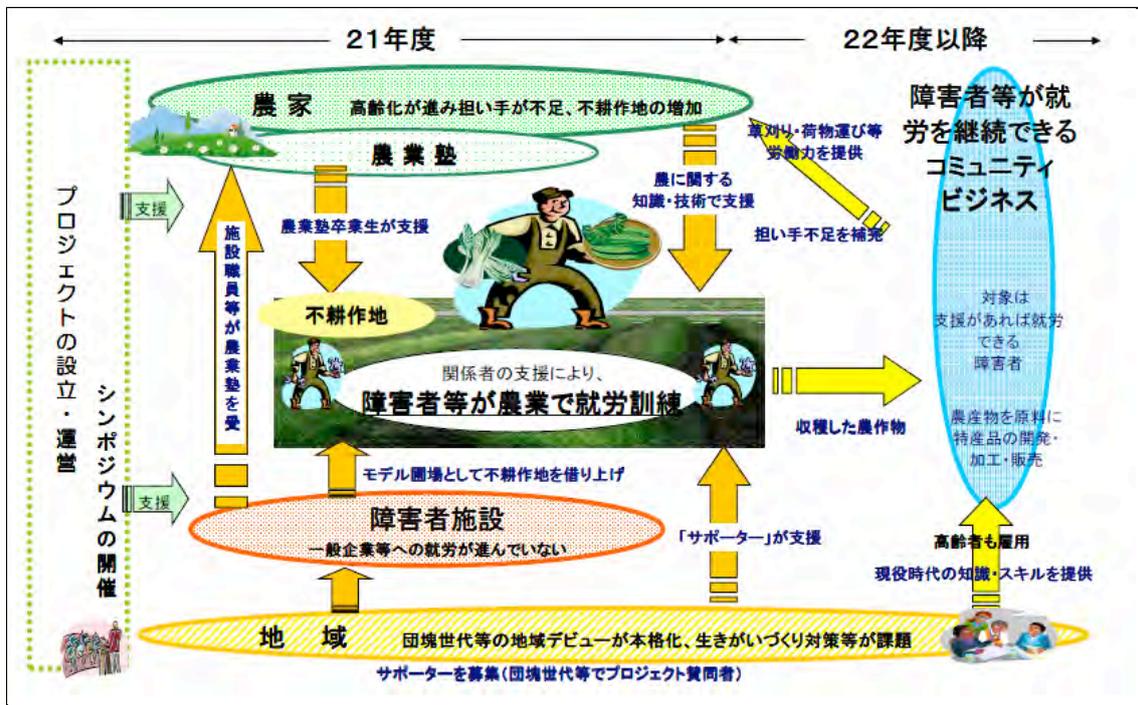
1-3 1年目の取り組み ～農業に触れる～

①キックオフシンポジウムの開催

事業を開始するにあたり、地域の方々に広く周知し、ご協力をいただくために「キックオフシンポジウム」を開催した。

1 活動の概要

アクションプログラム図



平成 21 年 7 月 11 日、神戸市フルーツ・フラワーパークで「農でデザインする福祉のまちづくりシンポジウム」と題し、第一部では、(株)いろどり代表取締役社長の横石知二氏にご講演いただき、第二部のシンポジウムでは、地元生産者、民生委員、障害者就労支援事業所の方々からお話を伺い、約 340 名の参加者があった。

農でデザインする福祉のまちづくりシンポジウム

手話通訳有

第一部 講演会 14:00~15:30

「そうだ、葉っぱを売ろう！」
一地域とともに新たな働き方を求めて—
横石知二氏
(株)いろどり代表取締役社長

第二部 シンポジウム 15:30~18:30

コーディネーター：佐々木 陽一氏 (京都府立女子大学教授)
シンポジスト：藤 本 真紀氏 (北沢町農業活性化協議会)
藤 田 篤史氏 (おうち農業クラブ代表)
高 原 洋子氏 (北沢町農業活性化協議会)
藤 本 ぬ乳子氏 (おうち農業クラブ代表)

申込方法 定員300名

お名前、電話番号、参加人数、送迎バスをご利用の場合は乗降費、介助の必要な方は障害の状況などを記入の上、7月7日(火)までに「アクセスシート」に記入の上お送りください。先着順に受付、定員になり次第締め切らせていただきます。

入場：参加料・参加費 無料
開場時間：13:30
開演：15:00
開演前15分

7月11日(土) 14:00~16:30
開場：13:30 交流会17:00~18:00
フルーツ・フラワーパーク 薔薇の間

主催：北沢町、神戸市（産商研連携・情報提供）、北沢町社会福祉協議会、フルーツ・フラワーパーク、北沢町産地支援協議会
問い合わせ・申込先：(社)フレンド シンポジウムの会 〒651-1313 神戸市北区有野中町1-3-9
TEL: 078-959-5800 FAX: 078-962-9596 Eメール: farming-08@net.ocn.ne.jp



1 活動の概要

②販売事業の開始

最初を実施した取り組みは、事業所における農産物販売だった。

淡河町南僧尾地区を中心とした生産者グループ「おうご農園クラブ」の協力により、21年7月7日から、「NPO 法人はっち」が大池で「ピヨピヨ」直売所を開店し、月曜日から金曜日まで営業した。10月19日には、「NPO 法人にじのかけ橋」が東灘で直売所を開店し、毎週月曜日に販売に取り組んだ。

「かがやき神戸」は10月より、地元スーパーで月1回行われている福祉関係事業所のバザーで野菜販売を開始。「みのたに園」は地域福祉センターで行われている「ふれあい喫茶」で野菜販売を開始した。

12月23日に区役所駐車場で開催される「年末チャリティバザー」には、販売推進と事業の広報も兼ねて、上野丘更生寮と「はっち」が出店した。

3月21日からは、土曜と日曜に共同農園で採れた野菜の販売をフルーツ・フラワーパークの中庭で開始した。

一年目から、各施設がそれぞれの施設ができることを模索し、試行を行った。

はっち「ピヨピヨ」直売所 外観



にじのかけ橋 にぎわう店内



③モデル（実習）農園の開設

すでに農作業を本格的に実施していた施設は2つで、それ以外の農業経験のない施設は具体的なイメージを持つことも難しく、逆に夢だけが実現性とかけ離れて膨らんでいく傾向があった。

当初の計画にあったモデル農園は、新規に農業への取り組みを希望する施設が、まず実際に農作業を体験してみる農園として開設することになった。

淡河町行原で、約2反と1反の畑2ヶ所を利用させていただき、8月6日から整備を開始した。

「はっち」は8月6日の農園整備から参加し、無農薬栽培での農作業を開始。10月5日より、「みのたに園」が同じく無農薬栽培で農作業を開始した。2つの施設はそれぞれ月に

1 活動の概要

5日～10日ほど作業を実施し、指導のみを受け、自力で冬野菜の栽培に取り組み、収穫した野菜の販売も各施設で行った。「はっち」は精力的に取り組み、さらに面積を広げ、約2反の畑で冬野菜を栽培した。

慣行栽培を行っている共同農園では、「フレニード」「ヨゼフ寮」「野いちごの会」「グリーンホーム平成」の4施設が収穫作業などを体験した。共同農園の栽培管理はコーディネーターが行った。

モデル農園 募集案内

農業による就労支援のための体験・研修ができる

モデル農園の開設&利用者募集のお知らせ

募集要項



農でデザインする福祉のまちづくり事業では、
農業を就労科目にとお考えの施設・事業所が、施設職員と利用者が、
農作業を体験・研修できる農園を9月からスタートさせます。

- ・農業経験がなくて迷っている
- ・やってみたけど、うまく栽培できなかった
- ・もっとスキルアップして生産量を増やしたい

➡

応募をお待ちし
ています！

それぞれの課題に応じた農業体験・研修を行います。
農園には当事業のコーディネーターが作業の指導や援助を行います。
3月までの期間限定の事業です。この機会をお見逃しなく、ご活用ください。

■参加方法 参加方法は2タイプ

○専有畑タイプ(慣行栽培、有機栽培のどちらか選択)
週2日(実働4時間/日)以上参加可能な場合、専有エリアを設け、単独で栽培することができます。
種苗、肥料、消耗資材の費用は利用者にてご負担いただきます。収穫物は利用者でご自由にご利用ください。販売することも可能です。面積は希望栽培品目数や作業可能時間で要相談。

○共同畑タイプ(慣行栽培のみ)
都合の付くときだけ参加したい場合は、共同畑で、その時々に行っている作業を体験することができます。収穫物は全て販売し、経費に充当します。利益が残った場合は、作業時間数に応じて参加施設に配分します。

■研修受入期間
平成21年9月～平成22年3月末

■参加費
無料

■申込締切

専有畑タイプ	平成21年8月31日まで
共同畑タイプ	平成22年3月末まで随時受付

1 活動の概要

④サポーター説明会

11月24日10:00~12:00、社会福祉法人上野丘さつき会 そよかぜ作業所において、「サポーター募集説明会」を開催した。北区内から7名の方が参加し、事業説明や意見交換を行い、大根と白菜の収穫体験と施設の畑の見学を行った。

説明会に参加された1名の方は、2月4日から継続的に農作業や販売を支援くださった。



⑤「津山みのり学園」へ先進施設見学

3月17日、岡山県津山市の社会福祉法人「津山みのり学園」へ先進施設見学に行った。7団体から11名が参加。多機能型障害者支援施設「セルフみのり」の就労継続B型「農業グループ」と「花グループ」の活動を見学した。昭和40年の開園時から農業に取り組み、試行錯誤の末、現在は苗の生産・販売が中心になっている。大きなパイプハウス2棟で天候の影響を受けずに作業を行える利点は大きい。

午後からは、牧野恭典施設長から「これからの障害福祉施設のありかた」について講義いただき、意見交換を行った。津山みのり学園は、児童施設から特別養護老人ホーム、グループホーム村などを運営し、ゆりかごから墓場までの生涯にわたるサービスを目指している。

障害者が農作業を行うために生産施設のバリアフリー化の先進事例を学ぶことができた。

苗作り作業の視察



牧野園長の講演と意見交換



1 活動の概要

1-4 2年目の取り組み ～体験から作業へ～

①モデル農園の増設

モデル（体験）農園は、淡河町で面積が3反から5反に広がった。

当事業は当初からフルーツ・フラワーパーク（FFP）との協力を模索し、敷地のはずれにある遊休農地を活用することになった。

臨時駐車場としてバラスを敷いて使用されていた畑（1529 m²）はそのまま椎茸の原木栽培に利用し、南側の畑（963 m²）で野菜を栽培することに関係者で合意した。

この FFP 農園の整備は4月15日から開始し、フレニードが整備から関わり、遊休農地をきれいな畑に仕上げ、夏の果菜類の栽培を行った。

FFP 農園 整備前



FFP 農園整備後



②「椎茸園」の開設

椎茸栽培に取り組む障害者就労支援事業所は多い。農業関係の作業の中では、年間通して同じ作業を継続して行うことが可能なために取り入れやすい。

椎茸栽培には、原木栽培と菌床栽培がある。神戸市内の障害者就労支援事業所でも、「玉津むつみの家」は原木栽培、「西神ファーム」は菌床栽培に取り組んでいる。

神戸市における農家の椎茸栽培の状況は、農業従事者の高齢化にともない、重い原木栽培から軽く扱いやすい菌床栽培に移行する傾向がみられる。敬遠されつつある原木栽培が逆にビジネスチャンスがあるのではないかと考えた。

先進事例の視察は、平成21年11月30日「玉津むつみの家」、22年8月3日「あけぼの学園りけい寮」を訪問し、椎茸の原木栽培を導入する手ごたえを感じることができた。

導入するに当たり、栽培に適した林を探したが、利用できる林が見つからず、遮光ネットを張ったパイプハウスで栽培することになった。椎茸栽培ハウスは、日本財団の助成を受け、平成23年1月29日に完成した。

2月2日に、東北産の原木を2000本購入し、菌打ち（植菌）作業を開始。菌打ち作業は、

1 活動の概要

フレニード、はっち、かがやき神戸の3施設が行った。作業に当たり、2月7日、日本きのこセンターの技師を講師に「原木栽培講習会」を開催し、5つの事業所が参加した。

椎茸は植菌から収穫まで一年かかるため、本格的に作業を開始する前の訓練のためにすでに収穫可能な原木を六甲山牧場から200本、上野丘更生寮から200本購入した。

3月7日には、地元関係者もお招きし、「開園式」を開催。約30名の列席者があった。

開園式後、植菌作業を視察



椎茸園 外観



③販売活動の推進

上野丘更生寮とフレニード、陽気寮の3施設で栽培したジャガイモとタマネギの2品目に絞って、関係施設や団体に注文販売を行った。しかし、注文数は振るわなかった。商品の知名度や信用の低さ、また商品が物理的に重く自宅まで持ち帰る負担が大きいが原因として考えられた。

清心ホームの野菜販売



年末チャリティバザーでの野菜販売



1 活動の概要

直売所は、清心ホームが7月20日より、北鈴蘭台で「おうご農園クラブ」の協力を得て野菜販売を開始した。かがやき神戸は、11月26日から広陵町で野菜の試験販売「かがやき市」を実施したが、区内の福祉施設の野菜は2月の端境期には出荷が全くなり、継続を断念した。3月1日からは、「作業所すず」で加工品の販売を開始し、関係する直売所は4ヶ所になった。

イベントでは、Fの会の「収穫祭」で各生産施設が販売。年末チャリティバザーへは、生産施設が共同で出店した。

④ロゴマーク原画コンテストの開催

神戸市社会福祉協議会が大学や行政と連携して障害者就労支援事業所が生産する商品のデザインや販路などを支援する「授産商品開発プロジェクト」に応募し、ネットワークの統一マークと各商品のデザインの作成を支援していただくことになった。

ロゴマークの作成は、原画を関係施設の利用者から公募することにし「ロゴマーク原画コンテスト」を開催。11月29日から12月15日まで受け付け、106点の応募があった。

一次選考会は、12月17日に、神戸芸術工科大学の見寺教授と柗研究員の協力を得ながら、4点の作品を選んだ。二次選考会は、2月6日に開催された「授産振興シンポジウム」の会場で、原画からデザインされた4つのマークにシンポジウムの参加者が投票し、斎木康祐さんの原画をもとに描いたマークが選ばれた。

一次選考会の様子



二次選考会の様子



⑤「農&福祉ボランティア体験ツアー」の開催

学生等の若者が農業や障害者福祉に触れる機会は多くない。当事業のサポーター（理解者・協力者）を育て、増やすことを目的に、学生を対象とした「農&福祉ボランティア体験ツアー」を開催した。12月3日・4日の1泊2日で、4大学から9名の参加者があった。

1日目の午後は、施設利用者と一緒に農作業、夜は施設職員との交流会。2日目は、午前中は、選択プログラムで、施設での農作業か障害者との買い物ガイド体験、午後は講演会。

1 活動の概要

参加者はアンケートに、貴重な体験ができ、もっと農業や福祉について学びたいと記した。

農 & 福祉ボランティア体験ツアー チラシ

農業、ソーシャルビジネス、障害者就労支援に関心のある若者 大歓迎!

オシャレな神戸で
社会貢献+農業体験!

ボランティアツーリズム

農業&福祉 ボランティア 体験ツアー

農でデザインする福祉のまちづくり

平成22年
12月3日 金 ~ 4日 土

集合/12:30 解散/18:00
いずれも三宮駅(神戸市)



講演会 (12/4 13:30~)
「働く幸せ
~障害者に導かれ共に歩む会社~」
大山泰弘氏(日本理化学工業会長)

新進ステーション、
カンパリア宮殿でも絶賛!!

対象 大学生、短期大学生、専門学校生など
18歳以上の学生(就職活動中の既卒者含む)

定員 20名 ※11月5日から先着順受付、最少5名以上で実施

参加費 1人 **4,800円** *宿泊料は主催者が負担
食事代込み(3日夕、4日朝・昼食)

・神戸三田プレミアム・アウトレットでショッピングも楽しめます

・神戸ルミナリエもはじまります

主な内容(スケジュール)

3日(金)	4日(土)
オリエンテーション・プロジェクト説明	午前中 自由行動
ボランティア体験 (障害のある人と一緒に淡河大根の収穫)	① 神戸三田プレミアムアウトレットでの ショッピング(宿泊先から10分、送迎あり)
歓迎・交流会 神戸フルーツ・フラワーパークホテル(宿泊先)	② 障害福祉施設ボランティア体験(送迎あり)
▲フルーツ・フラワーパーク	講演会(大山泰弘氏)
	解散




▲有馬温泉と同じ源泉「西の湯」



▲神戸ルミナリエ 12月2日~13日
※ツアーには含まれません

その他

- 1 行程および体験内容は一部変更する場合があります
- 2 体験内容を同プロジェクトのホームページや広報紙などで後日紹介します
- 3 障害福祉施設への長期のインターンシップ希望者には、別途対応します

主 催 農でデザインする福祉のまちづくりプロジェクト 社会福祉法人フレンド 神戸市北区役所 神戸市北区社会福祉協議会

問合せ先 (社会福祉法人)フレンド 神戸市北区有野中町1丁目3-8
☎(078)959-5800 Eメール: farming-d@jewel.ocn.ne.jp

1 活動の概要

1-5 3年目の取り組み ～作業から事業へ～

①部会の立ち上げ

3年目からは、生産、加工、直売所の3つの部会を立ち上げ、作業効率の向上や商品の開発や改善、販売促進に取り組んだ。また各事業所の売上を報告、公表し、事業としての意識向上を目指した。

②生産部会の取り組み

生産部会は、4回の会合を持ち、生産に取り組む上野丘更生寮、はっち、フレニードが参加。作付計画や利用者への作業指導方法などの意見交換を行った。

夏の果菜類の収穫作業を向上するために、収穫カゴやコンテナを56個、収穫ハサミを23個整備した。

「地域ふれあいまつり」、「年末チャリティバザー」、児童館が開催するフリーマーケットなど多くのイベントで野菜の出張販売を行った。

他の部会や施設との協力や連携を実施した。具体的には、上野丘更生寮で採れた椎茸の乾燥を、乾燥器を所有している「かがやき神戸」と協力して実施した。ミョウガを安く入手したい「すずらの里」は上野丘更生寮のミョウガ畑を訪問し、ミョウガの収穫を自分たちで行った。

かがやき神戸で椎茸乾燥



上野丘更生寮でミョウガの収穫作業



③加工部会の取り組み

加工部会は、6回の会合を持ち、農産物加工に取り組む、上野丘更生寮、かがやき神戸、すずらの里、清心ホーム、はっちが参加。佃煮や漬物を主とした新商品の開発や包装の改善などに取り組んだ。生産部会と連絡を取り合い、旬の新鮮な野菜の規格外品を仕入れ、材料費を抑える取り組みを行った。

1 活動の概要

10月24日に、道場町の漬物生産者、藤原辰彦氏を講師に研修会を行った。

11月1日からは、兵庫県楽農生活センター楽農学校アグリビジネス加工コースに3名が受講した。

1月から、すずらの里にラベルプリンターを試験導入し、外見と作業効率の向上に取り組んだ。

漬物加工研修会



加工品の検討



④直売所部会の取り組み

直売所部会は平成22年度から8回開催。直売所の運営、利用者の作業内容などを相談した。

直売所は、7月1日にみのたに園が松ヶ枝ショッピングセンター内に「ファクトリーたけふ」を開店、自家栽培と地元生産者の野菜を販売。

7月4日からは、兵庫区のいかり共同作業所が、月2回、地元地域センターで「まちなか市」を開催し、北区の福祉施設の野菜を販売。販売に取り組む関係事業所は7カ所になった。

販促用のぼり



配送車用マグネットシート



1 活動の概要

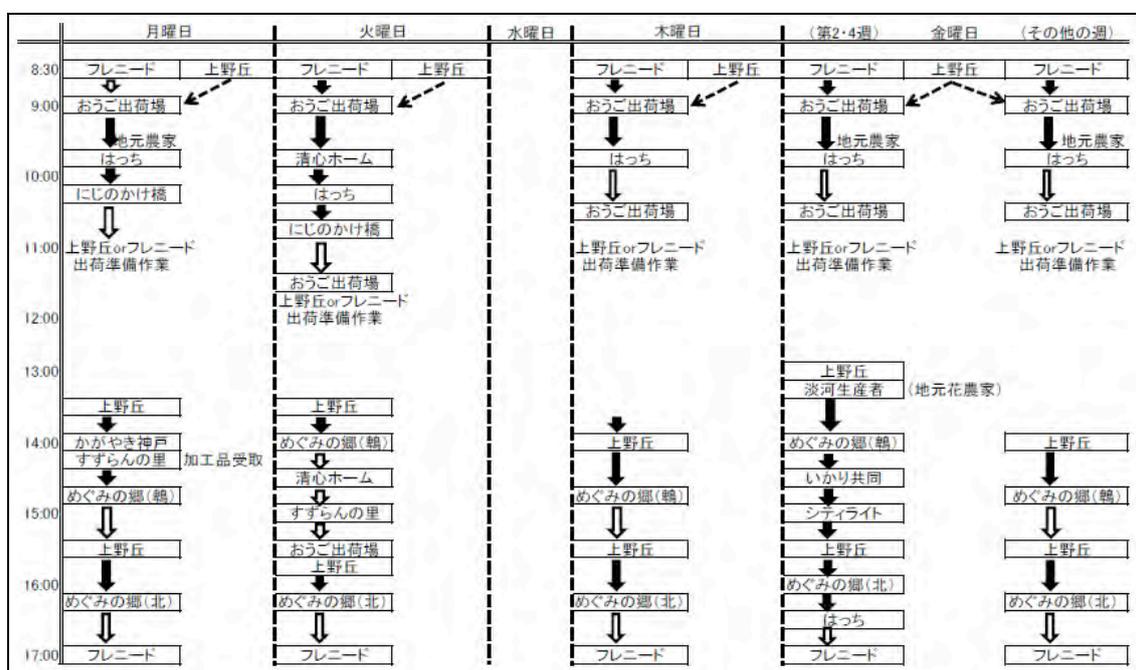
⑤ ロゴマークの作成

22年度の授産商品開発プロジェクトで選ばれた原画をもとに4種類のロゴマークを作成。野菜や加工品に張り付けたり、配送車のマグネットシート、直売所用の「のぼり」などを作成し利用している。

⑥ 配送支援の実施

生産施設と野菜を加工や販売のために必要とする施設の間で、配送手段が確保できずに販売を断念するケースがあったために、12月1日より配送スタッフ1名を雇用し、週4日の配送支援を開始した。

12月は出荷量が多く、収穫と出荷準備に追われる生産施設にとって、配送の人員や時間的な負担が軽減され、作業効率を向上することができた。



2 事業の検証

2-1 農業生産関係

①農業事業所での就労

障害者の農業就労で、まず一般の農業事業所での就労について検討した。

北区においては、従業員を雇用している農業事業所はわずかであり、就職の機会は少ない。唯一、グループホームと協力して牧場で働いているケースがある。

当事業を開始するにあたり、米作農家とハウス栽培農家で農作業を実施した。

米作農家では、田植え後の補植作業、ハウス栽培農家では、軟弱野菜の収穫作業と収穫後の野菜の片づけ作業を行った。共に単発の作業依頼であり、家族経営の農家では、継続して依頼するほどの作業はない。また単発の作業では、そのたびに作業内容が異なり、訓練を継続して作業の能力を身につけていくことが困難である。

現在、地元農家で、畔や法面の草刈り作業を実施しているが、年に5日から10日ほどである。訓練として実施し、能力を高めていくには、ある程度の頻度で作業を行うことが必要である。日常的に行っている作業の合間に実施するため、作業計画の調整と天候の影響も含めて、実施する日程に余裕が必要になる。作業内容も毎日の訓練が必要なものは難しい。

以上の結果から、当事業では、障害者就労支援事業所での取り組みを主に取り組みことにした。

補植作業



ハウスの残さ片づけ作業



②作業時間

障害者就労支援事業所でそのような農業関連事業が可能かを試行、検討した。

すでに農業生産に取り組んでいる事業所は2つあり、2つとも入所施設であった。通所事業所の場合は、就労時間が9:30～16:00ぐらいが多く、準備や片づけ、圃場までの移動時間を含むと農作業を行う時間が2～3時間になってしまうことが分かった。通所施設では、

2 事業の検証

移動などの作業以外の時間を短くし、作業時間を十分に確保することが課題である。

また屋外での農作業は気候の影響を受け、真夏の日中活動は身体的な負担が大きい。気温が高い時に野菜を触ると傷みやすく、できる農作業が限られてくる。夏も冬も同じ時間帯で農作業を全て行うことはできない。今後の検討課題は、入所施設やグループホームから直接農作業に出られる環境の施設で、農家の労働時間に近い、季節や気象に応じた作業時間の設定の可能性である。可能ならば農作業を行いやすくなる。しかし、生活リズムが頻繁に変わることは生活指導を難しくする反面が伴う。

入所施設と通所施設の作業時間例

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
入所施設		農作業	休憩	農作業	昼食	農作業	休憩	農作業		
通所施設		支度	車で移動 農作業	車で移動	昼食	車で移動	農作業	車で移動 着替え		

③野菜の苗作り

1年目の8月、畑を持たない事業所でもできる農作業として、セルトレイでの冬野菜の苗作りを入所施設1カ所、通所施設2ヶ所で実施した。

3施設とも苗はうまく育てることができた。入所施設では、高齢のため、小さな種が見えにくい方が多く、播種作業が難しかった。水やり作業は、朝食と昼食の食後に行い、毎日の生活サイクルに繰り返り入れられるため管理作業は行いやすかった。

一方、通所施設は、平均年齢が低く、播種作業は行いやすかった。列毎に播き忘れや同じ列に2回播くミスが目立ったので、定規のようなものを播き終わった列に当てることでミスはなくなった。通所施設の課題は水まきで、休みの日に職員が出て行う負担は大きかった。

苗作りを事業として取り組むには、春と秋の年2回に集中するため、栽培する苗を置くことができる広さで苗の生産量が決まる。雨がかからないように育苗ハウスも必要となるため、今回の取り組みでは、自家用の苗の栽培以上の取り組みには広がらなかった。地域の農家の方からは、あればぜひ購入したいというニーズはある。また「津山みのり学園」の先進事例もあるので、苗作りの事業は、実現性の高い事業の1つであると言える。

2 事業の検証



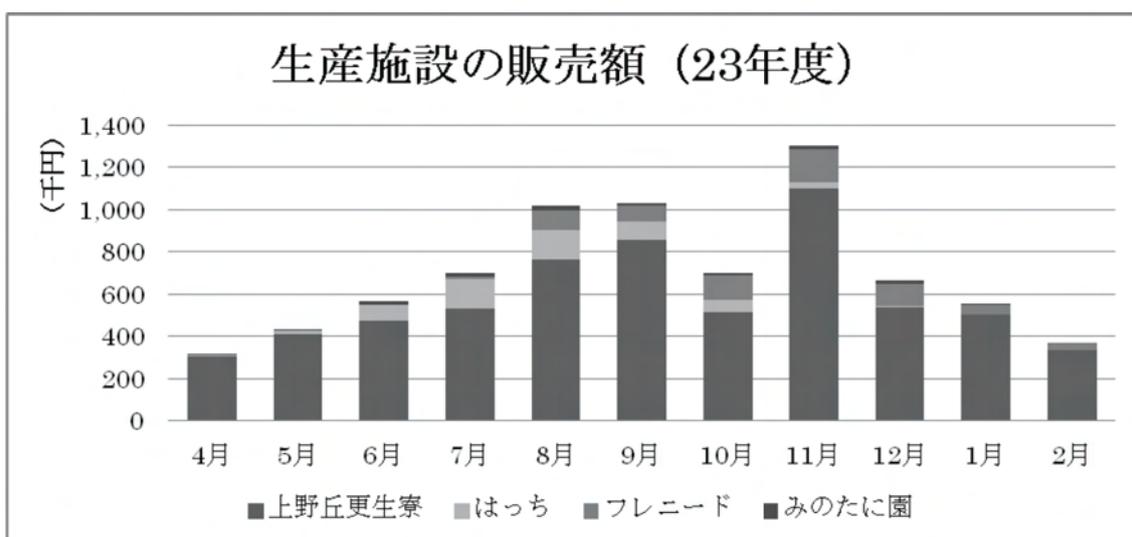
④生産部会の実績

23年度に生産に携わる事業所の月毎の販売実績をまとめた。報告のあった4施設のうち、すでに農業生産に取り組んでいた事業所が1つで、残りの3施設は、当事業で農業生産に本格的に取り組み始めた。2つは就労継続B事業所で、もう1つは生活介護事業所である。

4月から2月までの11ヶ月間の全体の販売額は766万円。そのうち、すでに取り組んでいた1つの事業所の販売額は、635万円で、全体の販売額の83%を占める。

一方、新規に事業に参加した3施設の販売額の合計は、131万円で、販売額を約2割増加させている。

野菜の栽培品目は、4施設とも、直売所への出荷に合わせた多品目生産を行った。既存の取り組み施設は入所施設であるが、他の3施設は通所施設であり、休業日の管理作業や作業時間が短いなどの問題を踏まえて、今後、どのような農業生産に取り組んでいくか、さらに検討していく必要がある。



2 事業の検証

農業生産活動の基本である野菜の路地栽培は、気候や気象の影響を直接受ける。悪天時や地面に水が溜まったり、ぬかるんでいる状態で作業を行うことは困難を伴うため、室内で行う別の作業科目を用意しておく必要がある。一年を通して農業生産を行うには、天候の影響を抑えられ、冬などの低温時も栽培が可能な施設を導入することが望ましい。

2-2 農産物加工事業

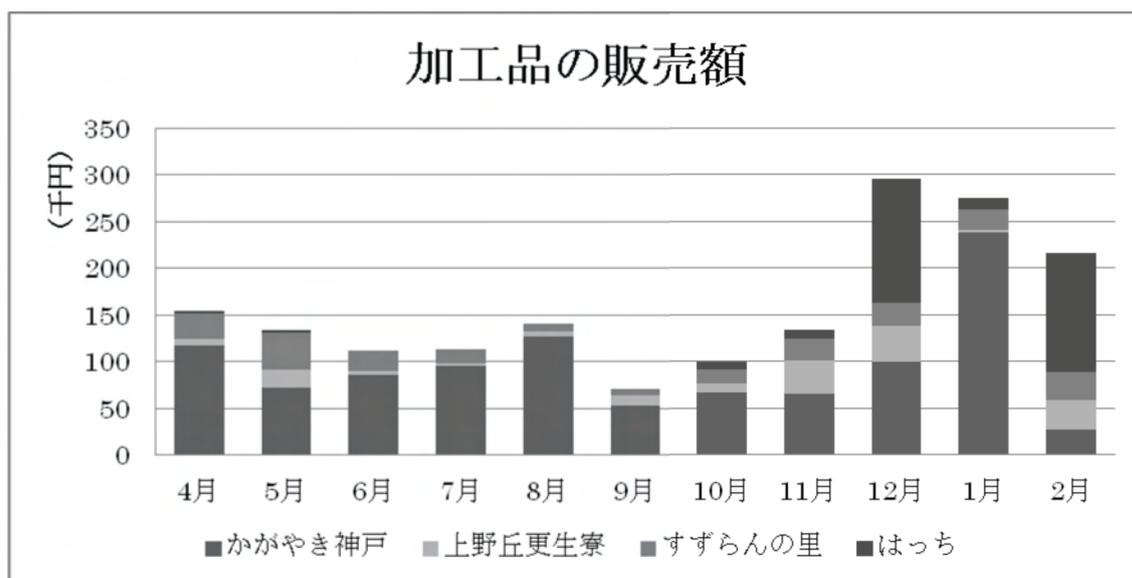
①23年度の販売実績

生産、販売の取り組みに比べ、加工の取り組みは遅かった。事業内容に示された「地域ブランド商品の開発」に囚われ、一発大当たりを狙うような雰囲気があった。しかし、現実には、品質を保つ技術や量産できる設備はない。22年度後半ぐらいから、生産同様、できることから取りかかることにした。

その頃から、お昼の弁当事業を行っている「すずらんの里」が加工部会に参加し、弁当の販売のない日や、午後からの時間を利用して、生産事業所の農産物を使用した惣菜づくりに取り組んだ。そして、他の事業所も加工品の改良や新商品の開発に積極的に取り組んだ。

23年度の販売額を見ると、かがやき神戸の入浴剤が安定して売れ、秋からは、上野丘の乾し椎茸や切り干し大根、12月と2月は、「はっち」が餅の生産を始めた。

グラフ全体を見ると、野菜の生産量と反対になっていることが分かる。上野丘のような生産に取り組む事業所では、農閑期の作業に加工品の生産を取り入れていること、「すずらんの里」のような加工専門に取り組んでいる事業所は、商品の少ない時期に直売所からの要望が高いことが原因と考えられる。



2 事業の検証

野菜と加工品の生産をうまく組み合わせて、直売所の客離れを防ぐ対策が進んでいると評価できる。

②規格外品、余剰品の利用

農作物の規格外品や余剰品を利用した加工品作りは 1 年目から取り組んだ。乾し椎茸や切り干し大根は、以前から取り組まれていた。

弁当事業に取り組んでいる「すずらの里」は上野丘更生寮と連絡を密に取り、形は悪いが新鮮な野菜を安く仕入れて材料費を抑えている。また「すずらの里」からの要望で、これまで収穫・出荷せず、山に埋もれていた「山椒の実」や「ミョウガ」も取り扱うようになった。

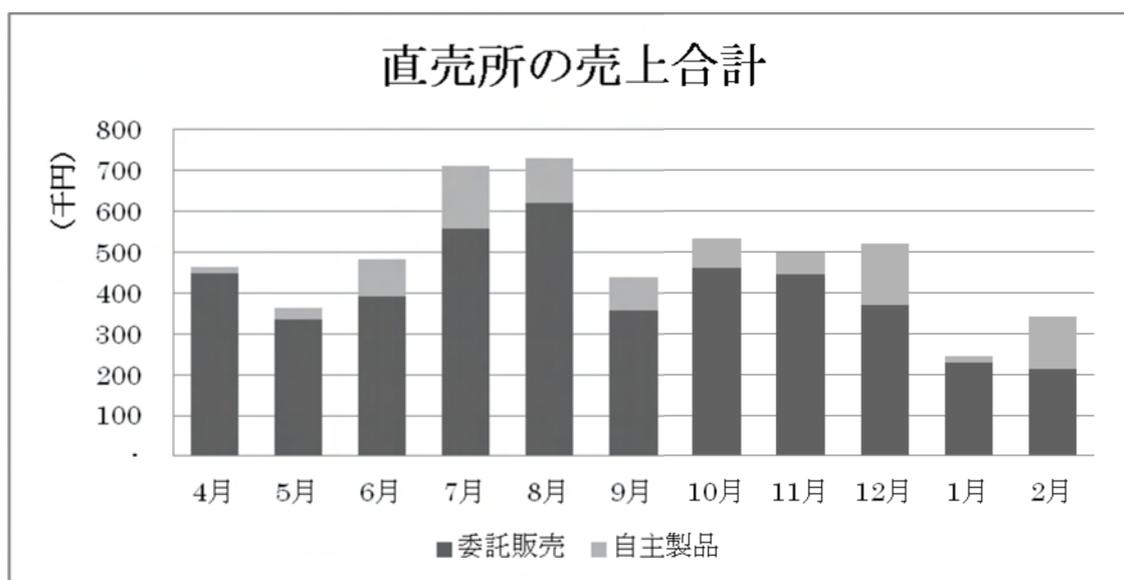
清心ホームの高野さんからの提案で、必ず余剰がでる夏のキュウリやナスの塩漬け保存に取り組んだ。保存した野菜は、作業のできる時に塩抜きをして、漬物に加工し、販売した。保管場所が十分に確保できず、塩漬けできた量は少なかった。今後は十分に保存できる場所を確保し、廃棄されていた余剰野菜の有効利用を推進していく。

2-3 販売事業

①23 年度の販売実績

野菜の販売には、5つの事業所が取り組んだ。

23 年度において、各事業所の 1 日当たりの月平均売上は、最高が 7 月で 41,753 円、最低は、1 月で 4,305 円。野菜の仕入代を引いた粗利益では、最高が 7 月に 8,661 円、最低は、2 月で 1,080 円でした。1 事業所 1 日当たりの年間平均売上は、約 1 万 4 千円、粗利益は、約 4,700 円だった。



2 事業の検証

野菜の生産には季節変動がある。6月から11月は、委託販売の量も、自施設で栽培した野菜の量も多くなっている。1月から3月は端境期で野菜の生産量が減少する。12月と2月に自主製品の販売額が増えているが、これは農産物の加工品の生産・販売が増加した。農業生産の農閑期に、加工品生産に取り組み、直売することで、売上の減少や客離れを防ぐことができた。

②仕入販売と委託販売

直売所の販売方法には、仕入れ販売と委託販売がある。当事業の直売所も仕入れ販売をしている事業所と委託販売をしている事業所がある。2つの特徴を整理すると以下のようになる。

仕入れ販売と委託販売の特徴

	仕入れ販売	委託販売
商品	買い取り	販売委託
仕入れ品目・量	調整できる	調整できない
小売価格	自由にできる	生産者が指定
採算性	高い可能性も 赤字の可能性もある	販売手数料収入のため 赤字になることはない
返品	なし	必要

委託販売は、都市近郊地域の強みを活かした取り組みで、農家が小売できる状態まで包装した野菜に小売価格をつけて出荷し、直売所はそれを販売し、残りを返品し、販売した分の販売手数料を受け取る。委託販売の良い点は、仕入れを考えたり、連絡したりする必要がなく、売れ残っても赤字にならない点である。この点で、就労支援事業における販売作業の訓練に向いていると言える。

マイナス点は、返品が増えると農家から出荷してもらえる量が減少する。端境期には出荷量が激減し、直売所の体裁を保つだけの野菜の量の確保が難しくなり、客離れが進んでしまう。客数が減少すると、返品が増え、さらに出荷量が減少するという負のスパイラルがある。もう一点は、委託された商品の残品を返品する必要があるが、販売を毎日行う場合は返品負担は少ないが、週に1回の販売の場合は、仕入れと返品で配送の負担が2倍になる。販売回数が少なく距離の離れた事業所では、この理由で仕入れ販売を選択しているケースがある。

一方、仕入れ販売は、委託販売に比べて、ハイリスクハイリターンであると言える。仕入れや販売能力が高い場合は、仕入れ販売も可能である。また、給食や弁当事業を併設していると売れ残りを買取り、損害を回避することができる。

2 事業の検証

2-4 ネットワーク

①ネットワークの効果と課題

各事業で検証してきたように、事業所間でネットワークを組み、相互に補完し合うことで余剰野菜の有効活用や野菜と加工品の組み合わせによる販売戦略など多くのメリットが生じた。

このネットワークを長期的に継続していくには、そのための費用や手間が効果を上回らなければならない。生産事業所が1つの店で全ての野菜を販売できるとしたら、ネットワークの加工や販売に取り組む事業所に、野菜を分け、伝票を切り、配達することは無駄なことのように思える。しかし、その店に競合する野菜が並ぶなどで売れ残りがでる可能性は十分にある。売り先を多く持つ方が販売に有利であり、さらに一緒に販売を推進していくことで、常連客を増やし、自らの力で売上を増加させていける可能性も広がる。そういう取り組みを支援くださる市民の方々も多い。

上野丘更生寮は山を整備し、果樹栽培にも力を入れ始めた。何年後かに果樹の出荷の種類が徐々に増え始める。一時的な損得計算ではなく、長期にわたる協働の取り組みの可能性を視野に入れて取り組む必要がある。

②配送支援

23年12月より、事業で配送支援を開始した。水曜以外の週4日、ネットワーク間のほぼ全ての配送を支援した。配送や運搬作業は、同乗できる利用者の人数に限られ、事業所に残った利用者を少ない指導員で指導することになり、作業効率が減少する。配送支援の実施で、指導員、利用者とも作業に集中できるため、その効果は高い。「サポーターに関するニーズ調査」にも配送を希望する回答がある。課題は、継続的に実施するのに必要な経費である。

配送支援では、1日平均約100キロ走行し、時間は8時間かかった。年間200日実施すると、必要経費は約240万円である。23年度のネットワーク全体の生産額は約1,000万円で、24%に当たる。一般農家の農業経営費に占めるに「荷造り包装運搬費」は1割程度である。ネットワーク全体の生産額が2倍の2,000万円になると、配送専従者を雇用する経費が出せる可能性がある。現状では、各事業所で配送を実施するか、農繁期の期日限定で実施するのが適当である。

2-5 サポーター

当事業では、開始当初から事業のサポーターの募集・養成を視野に入れてきた。1年目に説明会を開催し、その後も「区社協だより」などを通じて募集した結果、4名の応募があった。しかし、継続して取り組んでくださった方は1名だった。

一方、各施設にはボランティアが定着し、3つの事業所で約10名のボランティアが継続的に活動されている。

2 事業の検証

市民サポーターに関するニーズ調査結果(平成 24 年 2 月 7 日 北区社会福祉協議会)

区分	いかり共同	清心ホーム	上野丘	フレニード	はっち	すずらんの里	みのたに園	かがやき
現在の市民サポーターの有無	○	○	×	×	×	×	×	○
内容	販売	①販売 ②検品、販売 ③レジ、販売 ④搬出入、販売、検品、漬物加工						畑の整備等
人数	4人	①2~3人 ②1人 ③1人 ④1人						2人
頻度	月2回	①月1回 ②週1回 ③週1回 ④週1回+必要に応じて						不定期
今後の市民サポーターの希望の有無	○	○	×	○	×	○	○	
内容	来年度は、より利用者主体での野菜販売を考えている。販売・宣伝・配達など利用者と一緒に取り組んでくださる方を求めている。	(販売日数を増やす場合) 検品、販売		①収穫作業(特に夏)、土・日・祝や事業所の活動ができない時 ②施設外での作業が多く人員不足(利用者)で畑にまで手が回らないことがしばしばあるので、その場合に支援だけができる方 ③傷ついた野菜の加工(漬物等)や販売の仕方(パッケージ等)を教えていただけるといい		配達(発送)	利用者と一緒に共同しての農作業全般	
人数	2~3人	1~2人		①1~2人 ②1~2人 ③1~2人		2人	2人程度	
頻度	月2回	週1~2回		①月数回(季節による) ②週1~2回 ③随時		週2回程度	週2~3回	
市民サポーターの課題及び事務局への要望等			市民サポーターで技術協力が得られる方がいけばありがたい。	農作業が日常的に行えてなく、週に2~4回と不定期なこともありボランティアの予定が組みにくい。	サポーターの養成ということと実際に即戦力として活動いただける方や多岐に渡って知識があるベテランの方がいけば良いと思う。	現在、事業で漬物の配達やすずらんへの野菜の配達等をしていただき大変助かっている。今後、事業を継続・拡大していくには配達が一番の課題なので、これの継続をお願いしたい。	施設状況を把握した上で市民サポーターは非常に助かるが、下準備等を要するような入り方だと受け入れ側は少ししんどい。遊びに来るぐらいの方が助かる。	

2 事業の検証

24年2月に北区社会福祉協議会が「サポーターに関するニーズ調査」を行い、その結果を見ると、販売活動でボランティアが定着し、生産活動ではボランティアが不在であることが分かる。

生産活動に取り組む全ての事業所が露地栽培のため、作業の実施は天候に左右され、また事業所の予定や指導員の配置によっても変更される。事業の事務局に登録されたサポーターの方で、作業があるのかないのか直前まで確定せず、予定を空けていても直前に中止になることが多いことが理由で登録を取りやめられた方もあった。事業所では、悪天に備えて別の室内作業などを用意しているため、農作業だけでなく、事業所のサポーターとして取り組んでいただける方が時間を有意義に使っていただけると考える。「ニーズ調査」に「施設の状況を把握し、遊びにくるぐらいの方」という回答があるように、施設の都合を理解していただくことが重要であった。農業生産の推進を重視し、サポーターに対して施設の状況などについての説明が不十分であった。24年度以降は、各事業所のサポーターとして募集し活動していただくことになった。

一方で、生産活動におけるサポーターのニーズに、専門的な技術を有する方という希望も多い。

販売活動は、時間が確定していて、作業内容も大きくは変化しないので、ボランティアには関わりやすい。

2-6 就労継続支援事業所における農業の課題

①施設整備

これまで検証してきたように、障害者が就労するためには、それに適した施設が必要であり、気候や天候の影響を受ける農業生産においては特に重要である。先進事例事業所はいずれも充実した施設を備えていた。

就労支援事業では、収入から必要経費を引いた額を工賃として支払うことが原則であるが、就労支援事業収入の10%以内を限度に「設備等整備積立金」を計上することができる。しかし、多くの事業所は積み立てをする余裕がなく、施設の整備は、助成金頼みとなっている。まずは、しっかりとした基本方針を持ち、助成金が利用できるケースと、できないケースの二通りの計画を臨機応変に進めていくことが求められる。農業事業を実施していくためには、できれば、前年度工賃を上回り、設備整備費を少しずつでも積み立て、助成金の有無に関わらず、設備の更新や導入をしていくことが望ましい。

②労働者性

就労継続支援事業における利用者の労働について、平成18年10月2日、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課長から「就労継続支援事業利用者の労働者性に関する留意事項について」の通知にあるように、就労支援事業は、訓練等給付の事業であり、利用者本人の希望に基づいて実施される。出欠、作業時間、作業量等は利用者の自由であ

2 事業の検証

り、指導員は技術指導のみを行う。作業目標はあっても、その実現にむけた指揮監督のような行為は禁じられている。この点に適した作業は、個々のペースで取り組める内職のような仕事で納期が厳しくないものである。多くの就労支援事業所で、そのような作業が選択されている。

一般的な農業は気候や天候の影響を受け、播種時期、施肥時期、収穫時期や他の管理作業もタイミングが重要であり、生育や収量に大きく影響する。収穫後の加工や販売も速やかに行う必要があり、遅れると品質の低下やロスを生み、その後の販売にも悪影響をもたらす。

支援事業所の農業の取り組みは、目の前に利益の機会がありながら、そのチャンスを逃していくことが多い。畔の草刈りなどの請負作業なら、利益の機会を失うことはないが、支援事業所における農作物の栽培においては、利益損失の少ない栽培品目や栽培方法、適切な作業量の選択が求められ、適切な作業計画を立案していかなければならない。

2-7 おわりに

3年間にわたり、神戸市北区の農業と障害者就労によるまちづくりについて検討と試行を実施してきた。障害者就労支援事業所において、新規に自主事業を立ち上げるということは、新たに必要な知識を蓄積し、設備も一から揃えるという大変な労力と費用をとまなう。その苦労を覚悟して、積極的に事業を実施くださった事業所の方々に感謝いたします。

また、地元農家や関係者の皆様の様々なご支援やご協力により、事業を推進することができました。

一年目は、机上の空論や夢物語ばかりが会議で飛び交っていましたが、実際に作物を栽培、加工、販売していくことにより、事業が具体化し、具体化すると次の課題が明らかになり、一歩ずつ前進していくことができるようになりました。特に3年目に売上増加のために事業所間で協力して取り組んだネットワークは大きな財産です。生産・加工・販売については、規模はまだ小さいですが、具体的な実績を残すことができ、「農」と障害者就労の枠組みができた。北区の農業従事者の平均年齢を考えると、就労支援事業所が果たせる役割は、これから益々増加し、その期待に添えるように作業訓練の方法をさらに検討し、構築していきたい。

今後の課題は、「福祉のまちづくり」の部分である。

この3年間に取り組めたことは、市や区レベルの農業に関係する生産ネットワークです。農業に関係する「福祉のまち」の課題は、高齢者や障害者の買い物や食事の問題です。食べ物に関する事業は日常的に取り組めることが強みです。月1回、地域の高齢者を対象に行われている「ふれあい給食会」や高齢者が多く住む市住への出張販売、グループホームでの食材の利用などが実施されました。直売所における地域の高齢者との交流は「福祉のまち」の視点から大変意義深い取り組みであった。

これらの経験から、さらに、高齢者の地域支援事業の地域資源を活用したネットワーク

2 事業の検証

に参画し、配食や買い物支援を地域の事業所が担うことができればと考える。

この「まち」レベルの取り組みを、この3年間で構築した区・市レベルの農業生産のネットワークが支え、さらに全国の障害者支援事業所とネットワークを組み、より充実した食生活を支えるシステムを構築できればと考える。

この3年間の事業でできた核を一步ずつ前進させ、障害者や高齢者が参画する住みやすいまちづくりの実現に貢献していくことができればと思います。

施設名	社会福祉法人上野丘さつき会 上野丘更生寮		
代表者名	井上勝彦	担当者名	百済宣昭 影松百合子
所属部会	生産部会 加工部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <p>①農耕班と加工班の分担 これまで農耕班だけで、生産、出荷準備、配送までを行っていたが、収穫以降の作業を行う加工班を分離した。</p> <p>②ネットワークへの参加 生産部会と加工部会に参加した。</p> <p>③販路の拡大 ネットワークの直売所への出荷やイベントへの出張販売を行った。</p> <p>④加工品の開発</p>			
		 	
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <p>① 作業を分担して行うことにより、それぞれの作業に集中でき、効率もアップした。</p> <p>② 各施設の支援員は、日常の作業指導に追われるが、同じ作業科目を行っている他の施設の支援員と情報交換や話し合いを持つことにより、視野が広がったり、作業の改善、向上につながった。</p> <p>③ 直売所への出荷やイベントへの出張販売に取り組むことにより、販路が拡大したことと、消費者のニーズを把握しやすくなり、作付け計画の参考になった。</p>			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <p>①加工品の開発 乾燥器を取り入れ、乾し椎茸、切り干し大根以外も開発したい。</p> <p>②ハウスを利用 ハウスを使い2～5月の商品の少ない時期に対応できる様に考える。</p> <p>③作付けの工夫 息の長い大根や水菜の作付け面積を増やし、商品の少ない時期に出荷できる様にしたい。</p>			
<p>○その他 自由記入欄</p>			

3 各事業所の取り組み

施設名	社会福祉法人 かがやき神戸		
代表者名	松本 多仁子	担当者名	八幡 孝至
所属部会	加工部会 直売所部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <p>【加工部会】</p> <p>当事業所では、野菜の加工品を取り扱っていないため、以前より取り組んでいた『よもぎ』の入浴剤の制作という形で関わってきました。</p> <p>22年度より、農でデザインする福祉のまちづくり事業で運営してる淡河の畑をお借りし、よもぎの栽培を実施。</p> <p>平成22年度には、約2000本の苗を植えつけ、23年度、春から秋にかけ3度の収穫。</p> <p>23年度には、施設横畑に2000本・淡河の畑に4000本の苗を追加。</p> <p>【直売部会】</p> <p>21年度より定期的に販売を実施。(イオン筑紫が丘店・地域店舗)</p>			
			
			
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <p>栽培に関しては、当初予定していた以上に収穫できたことは次年度につながるものであったが、日々の手入れが行き届かず、ご迷惑をかけて部分も多々あった。</p> <p>販売に関しては、野菜の仕入れ等が安定しなかったことと、立地条件が悪かったこともあり継続することができなかった。</p>			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <p>栽培・加工に関しては、今まで同様取り組んでいく。</p> <p>販売に関しては、イオン筑紫が丘店横で店舗運営を計画しており、野菜の直売だけでなく、加工品・雑貨品等も含めた販売を企画している。</p>			
<p>○その他 自由記入欄</p>			

施設名	社会福祉法人 陽気会 みのたに園		
代表者名	野口 康恵	担当者名	広瀬 祥行
所属部会	直売所部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬野菜にこだわった生産活動 ・販売場所の拡充、展開 <ul style="list-style-type: none"> ・販売実績 ふれあい喫茶、温泉施設 地域イベント、休業時の店舗前 ※現在はテナントを借り、他の自主製品（焼き菓子、さをり織）、喫茶と合わせて販売している。 ・ネットワーク作り <ul style="list-style-type: none"> ・貸農園等で生産されている方々との協同販売 目的・ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化、生きがい創り ・生産者同士の交流の場 ・障害のある方の社会参加の場 		 	
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定客が徐々にではあるが増え、“地域に根差した”直売所として一定の成果は得られた。 ・野菜販売の相乗効果で自主製品、喫茶の売上も増えた。 ・ネットワークの拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・5名の貸し農園での生産者の方々との連携（毎火・木曜日販売） ・今では生産者が少なくなった希少な山田菊の生産者の方との連携（7月～10月販売） ・ミニ盆栽、苔玉の生産者の方との連携（月3回 第3火・水・木曜日販売） ・地元企業との連携（地元企業の事業活動への参加） 			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週二回の販売だが、ネットワークの更なる拡充により販売頻度を増やす。 ・生産物を特化することでの職員の関与を増やす。 ・より多勢の利用者がかかわれる加工品の製造。 			
<p>○その他 自由記入欄</p>			

3 各事業所の取り組み

施設名	社会福祉法人 フレンド ワークステーション フレニード		
代表者名	大久保敏則	担当者名	田邊義規
所属部会	生産部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 共有農園での野菜作り 農でデザインコーディネーターとともに、野菜作り。畑準備～収穫・出荷 しいたけの栽培 菌打ち作業～原木の移動・並べ替え・ハウス内の整備等 収穫・梱包・出荷 販路の拡大 直売所のほかに、フルーツ・フラワーパーク・めぐみの郷・山田町朝市 企業・各イベント（地域の祭りや児童館等）への出店など 			
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 得られた効果 <ol style="list-style-type: none"> 作業工程の構築 通年での生産～販売までの流れを作れつつある。 しいたけ栽培 今年度、しいたけ栽培の収穫開始。収益を望む 利用者の作業科目 作業科目として定着しつつある。農作業が好きなメンバーも。 今後の課題 <ol style="list-style-type: none"> 作業時間・行程・人材の確保 収穫～出荷準備・販売までを、日中活動中に行うのが、困難な場合がある。 収穫・出荷準備・販売を役割分担できるような、職員・利用者配置ができればよいが…。 土日祝の対応 土日祝の作業について、平日の人材確保（利用者・職員）のため、なかなか活動出来ずである。 作業内容の増減 時期で作業量が全く違う。他の作業が、人数がほぼ決まっている（施設外就労がほとんどなので）なかで、作業担当化がし辛い。通年で安定した作業量を考えていきたい。 作業収入のダウン 他の作業からの収益が大きい。農作業に人員を出せば作業収入が下がる結果となっているのが現状。 			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <ol style="list-style-type: none"> しいたけ栽培 ロスのない収穫・販路の拡大。加工品の作成・研究 野菜作り 共有農園での野菜作り～出荷。また加工品も検討中 販路の拡大 			
○その他 自由記入欄			

施設名	社会福祉法人ゆうわ福祉会 北むつみ会 すずらんの里		
代表者名	猪川 俊博	担当者名	松岡 喜久子
所属部会	加工部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <p>① 北区産の野菜を、就労継続支援B型「すずらんの里」の弁当に使用した。</p> <p>② 北区産の野菜を漬物に加工 就労継続支援B型「すずらんの里」の主たる業務は、弁当の製造・販売であるが、この作業の空き時間を有効に使い、メンバー自身が調理から包装までを行える漬物加工作業をH22冬より開始した。</p> <p>③ 漬物の販売 販売場所は、「農でデザインする福祉のまちづくり事業（以下、「農デザ事業」と略）のネットワークの店舗。 地域の福祉センターで出張販売（月2回） イベントで「農デザ事業」として出店した中で、他の事業所と共に販売を行った。 配送はネットワークの中で行っていただいた。</p>			
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <p>① メンバー自身が作業を自立的に行うようになった。 加工から販売までメンバーが行えるようになった。</p> <p>② 野菜の生産者との距離が大変近くなった。 みょうが狩り・椎茸狩り・栗ひろいと実際の収穫を体験した。地域の方々や野菜生産者等とメンバーが直接、接する機会ができた。</p> <p>③ 「農デザ事業」のネットワークの方々と情報交換する中で、漬物の加工方法などについて学習が進んだ。</p> <p>④ 「農デザ事業」ネットワークの方々の協力で販売網が広がった。</p> <p>⑤ メンバー自身が他の事業所の方々と協力して販売等を行うことができるようになった。</p>			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <p>（計画）漬物の販売所を増やす。 メンバーが調理できる漬物の種類を増やす。</p> <p>（展望）メンバーがすずらんの里での作業を通じて、地域の人々とながら、協力を深めていけるように事業を展開させていきたいと思う。</p>			
○その他 自由記入欄			



3 各事業所の取り組み

施設名	障害者支援施設 清心ホーム		
施設長名	佐古田 修	担当者名	荒谷文隆 小藪忠士
所属部会	直売所部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <p>平成22年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜直売所開設（屋外）～7月から、毎週火曜日～ 野菜搬入出用の車を購入 はっち（作業所）から漬物の委託販売開始 すずらの里・ブルーベリー（作業所）から漬物・クッキーの委託販売開始  <p>平成23年度</p> <ul style="list-style-type: none"> テント販売から専用屋根を設置 山田町農家から干しいたけを仕入れ販売 山田町農家から無農薬野菜の委託販売開始 つけもの加工品の試作開始 清心ホーム収穫感謝祭で野菜を販売し、売り上げを震災復興へ寄付 かがやき神戸からよもぎ製品の委託販売を開始 			
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売を通して、地域交流が促進されたこと 施設・作業所・地域（農家）とのつながりができたこと <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の入荷量が不安定なため、利用客が増えない 			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <ul style="list-style-type: none"> 専任スタッフを確保し、販売日を増やしていく コミュニケーションスペースの設置 			
<p>○その他 自由記入欄</p>			

3 各事業所の取り組み

施設名	NPO 法人 にじのかけ橋		
代表者名	武田 純子	担当者名	羽田 晋也
所属部会	直売所部会		
<p>● 取り組んだ具体的な内容</p> <p>・ にじのかけ橋、ぶどうの木（従たる事業所：深江南町）と 2 ケ所の直売所で毎月月曜日（休日の際は翌日）に販売する。週 1 回という弱点もあるが、地域柄、品質の良い物は少々値が高くても売れて、顧客も着実に増えていたが、22 年以降より品質、量とも低下が見られ現在に至っている。（品質の低下等によって売れ残りも増加傾向にあった）</p>			
			
			
<p>● 得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <p>・ にじのかけ橋利用者と地域住民との接点になった。 ・ 就労 B 型の利用者には①接客 ②陳列 ③レジ ④集計の体験ができた。</p>			
<p>● 来年度以降の計画、展望</p> <p>生産者と直接交渉する機会がないと質、量等の交渉がなかなかしづらく、当初の窓口が退いた事では今後（24 年度 4 月～）仲介者の有無も影響してくるかと思えます。来年度以降は未定です。</p>			
<p>○ その他 自由記入欄</p> <p>・ 時期によって極端に入荷量が減ることもあり、そういう時期には、購入時にお客さん同士、気を使わせてしまう事もあった。</p>			

施設名	社会福祉法人いかり いかり共同作業所		
代表者名	光岡留美子	担当者名	光岡留美子
所属部会	直売所部会		
<p>●取り組んだ具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> いかりとしての目的は、「まちなか倶楽部」（地域のミニ歴史資料館）の有効活用という視点からスタートした。地元自治会、まちづくり協議会や兵庫区まち推の方々との話し合いの結果、毎月第二・第四土曜日の午前 10 時 30 分～12 時に野菜販売（まちなか市）を行うことを決定した。 あわせて、地域の方々との交流（地域のニーズの掘り起こしも含めて）、利用者の工賃アップも目的に取り組む。 8 月 27 日より開始し、3 月 7 日現在 13 回実施。 地域の皆様のご協力で、定着し始めている。 			
<p>●得られた成果（達成できたこと、判明した課題、など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々との交流が深まり、ニーズが見えてきた。 近くに買い物をする店がなくなった。買い物に行くには神戸駅か東山市場。バスなどに乗らなければならない、行くのが大変。買い物はヘルパーさんに頼んでいる。料理は自宅ではしない。すぐに食べられる加工品なども欲しい。など。 利用者の工賃アップにもつながった。 8 月から 2 月の月平均収益 10,828 円 消費者の「安心・安全な野菜を食べたい」という声に応えることができた。 「北区でつくっています！」と自信をもって伝えることが出来ました。 			
<p>●来年度以降の計画、展望</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度は、「まちなか市」の取り組みを、利用者の作業として位置づけます。 発注から販売、金銭管理などすべて 利用者の作業として取り組むために、ボランティアさんの体制が必要になります。 課題です。 野菜を作られている北区の施設の皆様との交流を来年度はぜひ実現したいと思います。 			
<p>○その他 自由記入欄</p> <ul style="list-style-type: none"> 端境期をどのように乗り切るか、皆さんで知恵を出し合えたらと思います。 目新しい野菜の調理方法も教えていただければ大変有り難いです。 花が好評です。毎回花があればうれしいです。 			



3 各事業所の取り組み

施設名	NPO 法人 はっち		
代表者名	田畑 玲子	担当者名	榎原 茂憲
所属部会	生産部会 ・ 加工部会 ・ 直売所部会		
<p>● 取り組んだ具体的な内容</p> <p>・ 生産・加工・直売と 3 部門を展開し現在にいたっています。西大池にて、直売所「はっちの店 ピョピョ」をオープンさせ、淡河農園クラブ・協力農家・関係機関から新鮮野菜を仕入れ、委託契約で販売しています。定期的に移動販売(小部・鶴甲)にも出て、地域の方からも好評を得ています。平成 22 年度からは自家農園での野菜作り(無農薬栽培)にも本格的に取り組み始め、旬の野菜を店頭にも並べ提供しています。</p> <p>生産では淡河で 3 反程の畑</p>			
		 	
<p>● 得られた成果(達成できたこと、判明した課題、など)</p> <p>・ 対面販売では、レジ打ちや提案などで適材適所に合った利用者さんが関わることで活気が出ている。少しづつ収穫野菜が増え、お客様にもはっち畑の野菜をアピールできてきている段階である。野菜作りとは人を育てることに等しく、愛情を掛けることでより美味しい作物になってくれるのだということを協力頂いている農家の方から教わり、実感している。まさにその通りで四季を通じて様々な手立てが必要で大変な仕事だと感じる。</p>			
<p>● 来年度以降の計画、展望</p> <p>・ 1 日たりとも放っておけない夏野菜の生産・調整。</p> <p>・ 利用者の方が中心となって栽培⇒収穫⇒袋詰めまでを担う流れを確立できればと考えて取り組んでいる。果実生産・花(ドライフラワーを自主制作品として使用する) また、ジャムへの加工など展開できればと思う。</p>			
<p>○ その他 自由記入欄</p> <p>・ 北区の特長を生かした生産物の栽培やきたベシねっとならではの生産品作り。</p>			

2011

KOBE

農でデザインする 福祉のまちづくり プロジェクト

～地域とともに農業で障がい者の就労を支援～



事業主体：神戸市（北区保健福祉部）

委託先：社会福祉法人 フレンド

協力：神戸市北区社会福祉協議会・北区地域自立支援協議会

●農でデザインする福祉の

プロジェクト会議 (H.21.7～)



H21.7 プロジェクト設立
 メンバー／障がい福祉施設、農家、JA、フルーツ・フラワーパーク、民児協、自治会、神戸親和女子大、区社協等関係機関
H21.10 経営コンサルタントを招きプロジェクトで勉強会
H22.10 実務者による部会設立 (生産・加工・直売)

生産

モデル農園開設 (H.21.9～)

H.21.9 淡河町に不耕作地(休耕田)を活用したモデル農園を開設
H.22.4 大沢町に拡充(フルーツ・フラワーパーク横)
H.23.1 訓練用シイタケ園を開設(フルーツ・フラワーパーク横)



キックオフ シンポジウム (H.21.7)



「そうだ はっぱを売ろう」

講師 横石 知二氏
 (株) いろどり社長
 はっぱビジネスで過疎の村を再生させた社会的企業家



農でデザイン講演会 (H.22.12)

「働く幸せ」

講師 大山 泰弘氏
 日本理化学工業会長
 全社員の7割が障がい者という日本一やさしい会社から



会場では参加者に前日収穫した大根をプレゼント

プロジェクトの設立・運営・シンポジウムの開催

支援

支援



農業&福祉ボランティア体験ツアー (H.22.12)

支援

大学生を対象に、「農業&福祉ボランティア体験ツアー」を開催

関学大、神戸親和女子大、兵教大、神戸外大、神戸学院大から参加した大学生と障がいのある人が一緒に270本もの大根を収穫
 聴覚障がい者との筆談によるショッピングも体験



サポーター募集

まちづくりプロジェクト●

～)

不耕作地が農園に

シイタケ園



販売

直売所開設 (H.21.9～)

H.21.7 「はっち」
H.21.10 東灘「にじのかけ橋」
H.22.7 「清心ホーム」



高齢化した市営住宅への出張販売も実施

重症児も買い物客を出迎え地域の障がい者理解に貢献



加工

加工品開発

加工品(漬物、乾燥野菜、よもぎ入浴剤等)の制作、開発に取り組み中



H.22.11～
神戸芸工大の支援のもと障がい者が描いた絵をもとにロゴマークを制作
(神戸市授産商品開発プロジェクトに参画)

地域サポーター説明会 (H.21.11)

交流



サポーター(当プロジェクトに賛同し、参画を希望するボランティア)をし説明会を開催

地域白菜キムチづくり教室 (H.22.2)



サポーター(地域のキムチづくり名人)の指導のもと、「地域白菜キムチづくり教室」を開催

民生委員、特別支援学校生徒、保護者等が参加
白菜はモデル農園で障がい者が収穫した白菜を使用

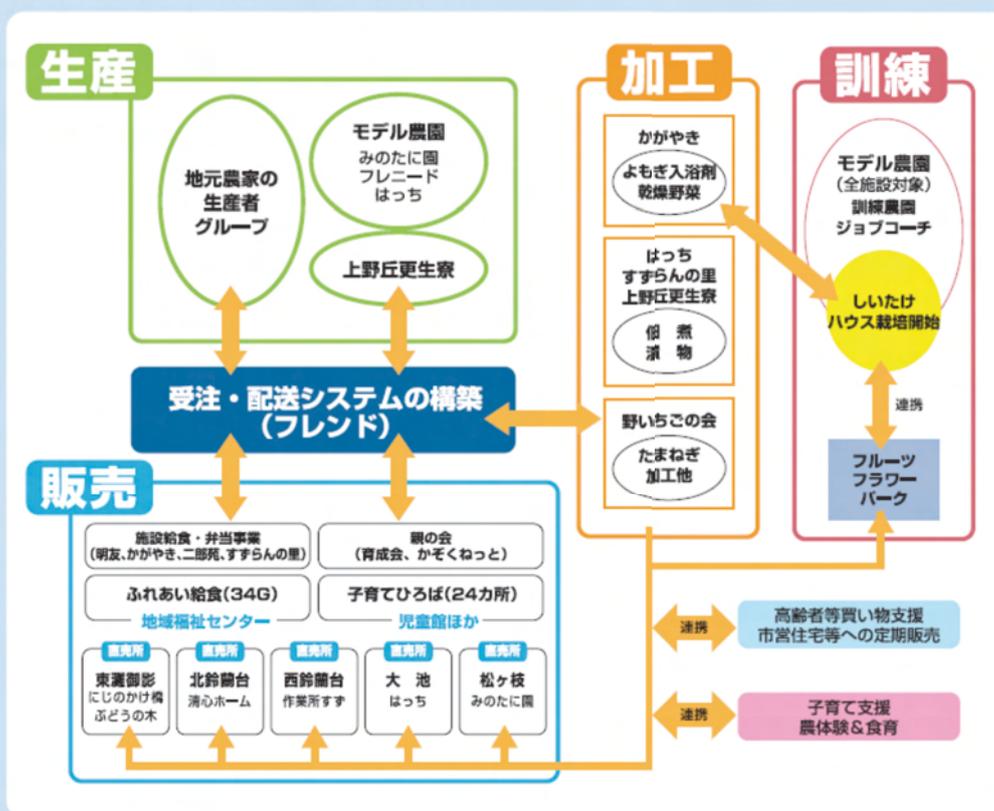
農でデザインする 福祉のまちづくりプロジェクトとは

農家や地域社会の支援のもと、障がい福祉施設が休耕田等を活用し、協同で農業による障がい者の就労支援事業を推進し、あわせて、北区の農業の活性化、団塊世代等の生きがいづくりや社会貢献の促進をめざすプロジェクトです。

ふるさと雇用再生事業（国庫補助事業）を財源に、平成21年度～平成23年度までの3年間のモデル事業として、モデル農園の開設、直売所の開設、加工品の開発、講演会の開催等の事業を実施してきました。

今後は、野菜等の生産量拡大や加工品の開発促進、地域活動等との連携による販路拡大を図りながら、受注・配送システムを構築し、障がい者、農家、地域社会が楽しく共生できる福祉のまちづくりを進めていきます。

平成 23 年度以降の将来図



発行：農でデザインする福祉のまちづくり事業 事務局
 社会福祉法人 フレンド 〒651-1313 神戸市北区有野中町1丁目3-8
 TEL 078-959-5800 FAX 078-982-9595

活動の記録（年表）

■活動の記録

平成 20 年度	
8 月	施設長有志による会議「農による就労支援の可能性について」
9 月	施設長有志による会議「各施設の取り組み状況と問題点について」
1 月	関係施設長会議「農による障害者就労支援の具体化について」
2 月	関係施設長会議「農と障害者等就労支援プロジェクトについて」
平成 21 年度	
4 月 1 日	北区役所が社会福祉法人フレンドに業務委託
5 月 1 日	コーディネーター2名を雇用
1 日	-15 日 コーディネーター 施設実習
5 月 12 日	第 1 回施設長会議
6 月 1 日	第 2 回施設長会議
6 月 1 日	しあわせの村シルバーカレッジへ事業説明
6 月 15 日	第 3 回施設長会議
7 月 7 日	はっち 大池に「ピヨピヨ」直売所を開店
7 月 11 日	「キックオフシンポジウム」を開催
7 月 22 日	「北区のまちづくりを考えるシンポジウム」パネラー参加
8 月 3 日	第 1 回プロジェクト会議
8 月 6 日	淡河モデル農園の整備開始
8 月 6 日	はっち 淡河モデル農園で農作業を開始
8 月 11 日	第 4 回施設長会議
8 月 21 日	各施設で野菜の苗づくりを実施
9 月 9 日	にじのかけ橋 農園視察
9 月 15 日	淡河モデル農園 仮設トイレ整備
10 月 5 日	みのたに園 淡河モデル農園で農作業を開始
10 月 7 日	第 2 回プロジェクト会議
10 月 19 日	にじのかけ橋 東灘に直売所を開店
11 月 10 日	第 5 回施設長会議
11 月 24 日	サポーター説明会を開催
11 月 28 日	にじのかけ橋 収穫体験と畑の見学会
11 月 30 日	しいたけ栽培視察「玉津むつみの家」
12 月 7 日	かがやき神戸 ジャスコで野菜販売
12 月 14 日	みのたに園 ふれあい喫茶で野菜販売開始
12 月 16 日	第 6 回施設長会議

活動の記録（年表）

12月 23日	年末チャリティバザーで野菜販売
1月 16日	フルーツ・フラワーパークで野菜販売を開始
1月 27日	鈴蘭台中央民児協研修会で事業報告
2月 20日	キムチ教室を開催
2月 24日	第7回施設長会議
3月 4日	「北区ふれあい喫茶交流会」で野菜の出張販売を宣伝
3月 10日	施設見学会「津山みのり学園」
平成22年度	
4月 13日	モデル農園にパイプ倉庫を設置
4月 15日	フレニード FFP 農園の整備を開始
4月 18日	大沢農業塾を受講
4月 21日	イベントブルゾンを25着制作
5月 13日	宗像市議会社会常任委員会視察
5月 17日	FFP 農園 倉庫と仮設トイレを整備
5月 28日	第1回施設長会議
6月 22日	ジャガイモとタマネギの斡旋販売を開始
6月 28日	親和大学実習生受け入れ
7月 9日	「ふれあい給食交流会」で事業説明
7月 20日	清心ホーム 北鈴蘭台で野菜販売を開始
7月 21日	フレニード めぐみの郷への出荷を開始
7月 26日	第2回施設長会議
7月 26日	はっち 漬物の試作を開始
8月 3日	しいたけ栽培視察「あけぼの学園りけい寮」
8月 4日	フレニード FFP 花売店で野菜販売を開始
8月 9日	「新商品開発プロジェクト」二次選考会でプレゼンテーション
9月 2日	3日、授産商品開発プロジェクトの支援者が事業を視察
9月 24日	授産商品開発プロジェクトの支援者によるワークショップを開催
9月 29日	第3回施設長会議
10月 8日	農村工学研究所による事業のヒアリング
10月 23日	24日、Fの会「収穫祭」で各事業所が野菜販売
10月 26日	かがやき神戸 奈良県の東吉野村にヨモギ栽培を視察
10月 27日	かがやき神戸 淡河農園でヨモギ栽培を開始
10月 28日	第1回加工部会
10月 29日	関西学院大学人間福祉学部で学生ボランティアツアーの説明
11月 13日	授産商品開発プロジェクト「インクルーシブデザインワークショップ」参加

「農でデザインする福祉のまちづくり事業」報告書

活動の記録（年表）

11月 26日	かがやき神戸 広陵町で野菜の試験販売「かがやき市」を実施
11月 29日	第4回施設長会議
11月 29日	-12月 15日 ログマーク原画コンテスト 作品募集
12月 3日	障害者週間啓発記事に掲載
12月 3日	4日、「農&福祉学生ボランティア体験ツアー」開催
12月 4日	「北区ふれあい講演会」で事業説明と農産物の販売
12月 8日	第2回加工部会
12月 11日	上野丘更生寮 二郎苑へ給食用野菜販売を開始
12月 17日	ログマーク原画コンテスト 一次審査
12月 23日	年末チャリティバザーで野菜販売
1月 24日	第5回施設長会議
1月 29日	椎茸園 パイプハウス完成
2月 2日	椎茸園 ホダ木 2000本導入
2月 3日	第3回加工部会
2月 6日	「授産振興シンポジウム」にパネラー参加 ログマーク原画コンテスト二次審査 参加者による投票
2月 7日	椎茸園 六甲山牧場よりホダ木 200本購入
2月 7日	椎茸園 「原木栽培講習会」
2月 7日	-9日 椎茸園 植菌作業
2月 10日	第1回直売所部会
2月 21日	第6回施設長会議
2月 24日	第4回加工部会、おうご農園クラブ六甲直売所視察
3月 1日	作業所すず 加工品販売を開始
3月 7日	椎茸園 開園式
3月 10日	「障がい者就労研修会 in つくば」で発表
3月 15日	椎茸園 運搬車導入
3月 23日	第2回直売所部会
3月 24日	第7回施設長会議
平成23年度	
4月 7日	第1回加工部会
4月 20日	第1回直売所部会
5月 16日	第1回施設長会議
5月 19日	椎茸園 上野丘更生寮よりホダ木 200本購入
5月 26日	第2回直売所部会
5月 30日	第1回生産部会

活動の記録（年表）

6月 3日	第2回加工部会
6月 8日	はっち 淡河町の生産者が出荷用コンテナ 20 個寄贈
6月 14日	親和大学実習生受け入れ
6月 20日	第3回直売所部会
7月 1日	みのたに園 「ファクトリーたけふ」を開店
7月 4日	いかり共同作業所 野菜販売を開始
7月 6日	第4回直売所部会
7月 8日	第2回生産部会
7月 15日	フレニード ありの児童館で出張販売
7月 16日	フレニード 南五葉児童館で出張販売
7月 16日	はっち 大池夏まつりで野菜販売
7月 19日	第2回施設長会議
7月 26日	生産部会 収穫カゴ、コンテナを 56 個整備
8月 4日	第3回加工部会
8月 6日	上野丘更生寮 すずらんの里とミョウガの収穫作業
8月 10日	第5回直売所部会
8月 11日	生産部会 収穫ハサミを 23 個整備
8月 19日	第3回生産部会
8月 19日	親和大学研修生にレクチャー
8月 25日	足立区役所から視察
9月 9日	パンフレット A4・4 ページ、2000 部作成
9月 19日	第3回施設長会議
10月 6日	第4回加工部会
10月 7日	第4回生産部会
10月 19日	椎茸園 発生ハウスにバラス敷き工事
10月 22日	清心ホーム「収穫感謝祭」
10月 24日	加工部会 漬物加工場見学会
10月 26日	育成会北支部親の会 大沢農園でいも掘りと黒枝豆の収穫
10月 27日	第6回直売所部会
10月 29日	-30日 Fの会「収穫祭」で各事業所が野菜販売
11月 1日	兵庫県楽農生活センター楽農学校アグリビジネスコースに 5 名受講
11月 5日	ゆうわ福祉会「バザー」に野菜・加工品を出荷
11月 9日	第4回施設長会議
11月 9日	ロゴマーク 4 種類が完成
11月 11日	第5回生産部会

活動の記録（年表）

11月 19日	のぼり 30本制作
11月 21日	第3回プロジェクト会議、ロゴマーク原画コンテスト表彰式
11月 26日	生産部会 かがやき神戸「地域ふれあいまつり」で野菜販売
11月 29日	フレニード ありの児童館で野菜販売
12月 1日	配送スタッフを雇用
12月 2日	配送支援を開始
12月 2日	椎茸園 発生ハウスにミスト散水設備設置
12月 8日	第5回加工部会
12月 23日	生産部会 年末チャリティバザーで野菜販売
1月 18日	第5回施設長会議
1月 27日	椎茸園 ホダ場ハウスにミスト散水設備設置
1月 31日	すずらんの里 品質表示用ラベルプリンターを試験導入
2月 9日	第6回加工部会
3月 7日	講演会「農に取り組む障がい者施設への応援メッセージ」
3月 7日	第6回施設長会議（全体会議）
3月 17日	かがやき神戸 サテライトショップ プレオープン

関係者一覧

■事業主体：神戸市（北区保健福祉部）

■委託先：社会福祉法人 フレンド

■参加事業所

生産部会 社会福祉法人 上野丘さつき会 上野丘更生寮 農耕班
NPO 法人 はっち ホームはっち
社会福祉法人 フレンド ワークステーション フレニード
社会福祉法人 陽気会 サニーサイド事業部
社会福祉法人 陽気会 みのたに園
加工部会 社会福祉法人 上野丘さつき会 上野丘更生寮 農業加工班
社会福祉法人 かがやき神戸 だんだん
社会福祉法人 恵泉寮 清心ホーム
社会福祉法人 ゆうわ福祉会 北むつみ会 すずらんの里
NPO 法人 はっち ホームはっち
直売所部会 社会福祉法人 恵泉寮 清心ホーム
NPO 法人 はっち ホームはっち ピヨピヨ
社会福祉法人 陽気会 みのたに園 ファクトリーたけふ
有限会社 コミュニティライフサポートいずみ 作業所すず
NPO 法人 にじのかけ橋 にじのかけ橋・ぶどうの木
社会福祉法人 いかり いかり共同作業所

■ご協力いただいた皆様

社会福祉法人 神戸市北区社会福祉協議会
社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
おうご農園クラブ
大沢町自治会
大沢町農業塾
株式会社 神戸ワイン
財団法人 日本きのこセンター
株式会社 いろどり 横石知二代表取締役社長
投石マネジメントフォース 投石満雄代表
社会福祉法人 津山みのり学園
社会福祉法人 あげぼの学園 るりけい寮
京都光華女子大学 佐々木勝一教授
神戸親和女子大学 菊池信子教授
神戸芸術工科大学 見寺貞子教授 柗伸江研究員
アート&デザイン「プリズン」 畠健太郎代表
旬のお野菜・お漬物「たつみ」 藤原辰彦

ここに掲載しきれないご支援・ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

■ロゴマーク



神戸市北区
「農でデザインする福祉のまちづくり事業」
(平成 21 年度～23 年度)
報告書

発行 「農でデザインする福祉のまちづくり事業」事務局
社会福祉法人 フレンド
〒651-1313 神戸市北区有野中町 1 丁目 3-8
平成 24 年 3 月発行

